

平成 15 年度 第 4 回大阪府河川整備委員会 概要 1 / 3

開催日時：平成 15 年 11 月 10 日（月） 16：00～19：00

場 所：大阪府立労働センター（エル・おおさか）7 階 708 号室

出席委員：池淵委員長、荻野委員、高橋委員、久委員、増田委員

1. 議 題

- (1) 前回議事要旨確認
- (2) 二級河川近木川水系 河川整備計画（素案）について
- (3) 一級河川淀川水系神崎川ブロック 流域及び河川の現況など

2. 概 要

- (1) 前回議事要旨確認について

ホームページ上で公開する議事要旨の内容や様式が了承され、平成 15 年度からの委員会の議事概要について公開することとした。委員会の詳細な内容が府政情報センターで閲覧できることについての情報も、ホームページで掲載していく。

- (2) 二級河川近木川水系 河川整備計画（素案）について

二級河川近木川水系河川整備計画（素案）の説明を行い、以下の指摘事項を十分、整理反映させた上、河川懇談会など住民意見を聞いていくこととした。

- （委 員） 梶谷川について、自然環境に配慮した整備を前提とし、現場状況に併せた河道断面の検討をすること。また既設護岸の安全面からの断面構造が必要なら、それを分かるようにすること。
- （事務局） 現場状況など考慮し、河道断面に余裕あるところについては、瀬と淵や蛇行などの自然環境に配慮した整備を考える。また既設護岸、橋台の安全面から必要な構造についても記述する。
- （委 員） 自然環境に配慮した河川整備を推進するため、大阪府では研究会や施工業者への指導は行なわれているのか。
- （事務局） 特に若手技師を中心とし、多自然型川づくりについての講習会や勉強会などを行なっている。また現場施工にあたっては、施工業者に対し現場条件を十分考慮し、自然環境に配慮した施工に努めるよう指導している。
- （委 員） 正常な河川流量の確保、適正な利水を行なうため、農業関係者、下水道管理者との踏み込んだ連携、協議をお願いしたい。

- (3) 一級河川淀川水系神崎川ブロック 流域及び河川の現況などについて

前回審議した際の意見や質問事項への回答、現状や今後の検討事項の説明を行なったところ以下のような質疑があり、次回以降の委員会では、治水の考え方、利水の基本的な方針などを協議していくこととした。

- （委 員） 社会環境について、都市部を流れる天竺川や糸田川などの小河川は、オープンスペースとしての活用は困難である。このため線路上につながる潤いの空間として、河川のデザインや修景、緑化整備を位置付けるなど、修景要素に配慮した空間づくりをしてほしい。

- (委員) 神崎川ブロックより下流に位置する、猪名川合流後の大阪府、兵庫県が管理している区間についてはどう考えていくのか。神崎川ブロックだけで検討を進めていける根拠が必要である。
- (事務局) 委員会での審議内容等については、関係機関である国や兵庫県と適宜、情報交換、共有を行なっている。淀川水系河川整備計画で検討中である、猪名川の治水の今後の状況とも重ね合わせながら、委員会での審議を進めていただきたい。
大阪府、兵庫県が管理する合流点下流の区間については、共通の目標を持って進めている。共通認識をもった方針を前提条件とし、委員会で審議いただきたい。
- (委員) S 4 2 年の北摂豪雨の浸水被害は、決壊と溢水と内水被害による浸水であると思われるが、これらの被害の分離はできないか。
- (事務局) その地域における内水的な浸水と、破堤し流れ込んできたものによる浸水との分離は難しい。何か条件を仮定することで、浸水被害の分離ができるかどうか検討したい。
- (委員) S 4 2 年の北摂豪雨については、必ずしも河川由来の浸水ではなく、その地域の状況や地形により浸水しているため、シュミレーションによる検証は困難である。被災者からの聞き取りを行なわないと状況把握は難しい。
- (委員) 被災状況について、毎年のように浸水被害が出ているが、ほとんどが内水の問題である。内水に対する対応について、本川の堤防補強、ダムのような貯留施設、合流点下流の排水能力など、それぞれによって対応策が違うので仕分けが必要。
- (委員) 100 年確率の洪水による浸水被害想定については、安威川ダムの対応を想定したものだと思うが、合流点下流の洪水排水能力や内水対策における、本川水位の関係は治水計算するなどしないと理解できにくいのでは。
- (委員) 洪水氾濫シュミレーションでは、6 ヲ所破堤することになっているが、評価水位を超えれば同時に破堤させる条件なのか。
- (事務局) 6 ヲ所別々に破堤させている。
- (委員) 上流での貯留や河道への流下は内水とリンクするが、地域によっては内水そのものの対策を考える必要がある。これらについて費用対効果 (B / C) を算出するだけでなく、対応における効果を抽出していく必要がある。
- (委員) 堤防が決壊しないということはとても大事。溢水だけであればどうなのか知りたい。堤防の決壊への対策、内水被害の防止に課題があるのでは。
- (事務局) 堤防の決壊への対策や内水被害の防止は、この流域の治水安全度を上げていくうえで大きな観点と思う。堤防を補強する考え方、下水道の内水対策としてポンプ整備が進められおり、その状況についても紹介したうえで、現在、浸水に対する備えをどの程度行なえばいいのか、議論願いたい。
- (委員) 動植物の現状把握ができていない。資料内でのデータが合致していないなど、整理が雑であったり、データが S 5 6 年当時の古いものもある。環境については、過去からどのように状況が推移しているのかをまとめてほしい。
- (事務局) 相談のうえ、ご検討いただける資料作成を行なう。都市部や山地部などのエリア区分を設定したので、それも含めてわかるような形で、整理していきたい。

(委員) 水需要を精査確認するとともに、大阪府の水需要実態がわかるようなものを水道事業者と調整のうえ、委員会に提示いただきたい。

安威川ダムについて、大阪府の財政状況と合わせ、水需要の現状や第 7 次拡張計画などを、説明願いたい。

工業用水に関しては転用対象にもなっているので流動的な内容だが、利水との関係はしっかりと記述いただきたい。わかりやすい説明をしないと、住民との関係が難しいことになると思う。

(委員) 千里ニュータウンや山地部の開発により、遊水機能、保水機能が低下しているが、そのあたりの関連性について記述してほしい。

湧水でいうと、勝尾寺川など湧水時に瀬切れを起こすなどの問題も一つの特徴である。生物相にとっては、水が無くなるというのは危ない状態であり、そうした記述もお願いしたい。